

役 職 名	氏 名	所 属
理 事	陸 勤	福島県教育庁保健体育課主管
"	戸 田 政 治	" " 保健体育課長補佐
"	星 正 止	県北地区小 中学校代表
"	武 田 亨	県中地区 "
"	菊 池 玄 夫	県南地区 "
"	小 沼 隆	会津地区 "
"	湯 田 武 夫	南会津地区 "
"	星 淳	相双地区 "
"	荒 川 清	いわき地区 "
"	飯 島 護	福島県高等学校教育研究会保健部会代表
"	佐 藤 暹	" "
"	猪 狩 秀 雄	" "
"	太 田 友 也	県北教育事務所指導主事
"	尾 形 茂 夫	学校医部会長
"	木 村 徳 衛	学校歯科医部会長
"	野 崎 善 雄	学校薬剤師部会長
"	鈴 木 田 男	保健主事部会長
"	上 枝 治 代	養護教員部会長
監 事	鈴 木 健 一	県北地区小学校長
"	黒 須 撰 一	" 中学校長
"	星 光 正	県北地区小学校長
幹 事	堀 金 良 臣	福島県教育庁保健体育課保健係長
"	岡 田 貞 夫	" 指導主事
"	黒 金 マイ子	" "

(2) 事務局

福島県教育庁保健体育課内

事務局職員 茂 木 知江子

(3) 会 員

- ① 県内小・中学校及び高等学校の児童・生徒
- ② 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

(4) 財 政

昭和57年度決算額 3,578,675円

(5) 事業の概要

- ① 学校保健講習会の開催
- ② 運動医事健康増進相談事業の推進（昭和56・57年度）
- ③ 各種研究大会・講習会への参加
- ④ 刊行物の発行
ア 健康手帳、小学校14,164部、高等学校 3,100部
イ 安全読本、小学校38,367部、中 学 校22,268部
ウ 会 報
エ 学校における応急処置の手びき
- ⑤ 学校保健・安全に関する研究調査
- ⑥ 学校保健功労者等の表彰

第5節 学校健康会

1 加入状況

昭和57年度の加入児童・生徒数は435,504名で、学校種別の加入状況は、表1のとおりである。前年度に比べ、義務教育において4,206名増加し、非義務教育において2,700名減少し、総数で1,506名増加した。加入率は、私立幼稚園・保育所に若干の未加入があるが、小・中・高等学校及び公立幼稚園・保育所は全校加入しており、児童生徒等も長欠者等特殊事情のある者を除き全員加入した。

なお、学校等設置者損害賠償免責特約についても、健康会に加入している全設置者が、この特約を付けた。

2 共済掛金の額

- (1) 災害共済給付に係る共済掛金
児童生徒1人あたりの掛金の額は、表2のとおりで、設置者と保護者とが分担する。
- (2) 学校設置者損害賠償免責特約に係る共済掛金
表3のとおりで、設置者が負担する。
- (3) 昭和57年度の共済掛金取入額は、表4のとおりである。

3 災害共済給付の状況

- (1) 給付件数及び給付金額
昭和57年度の給付件数は15,777件で、給付金額は205,759,577円である。給付別には負傷・疾病15,746件、障害 28件、死亡3件で、負傷・疾病が全体の99.8%を占める。
学校種別にみると、給付率（給付件数÷加入児童生徒数×100）では、中学校が65.0%で最も高率であり、次に高等専門学校が53.2%、高等学校全日制の41.7%、小学校の28.8%の順に低くなり、幼稚園・保育所は更に低率である。（表5）

年次の推移をみると、給付件数においては、増え続けてきた件数が昭和52年度を頂点として以後横ばい状態であったが、昭和56年度から再び増加の傾向を示し、この傾向は幼稚園・保育所・高等学校に著しくあらわれている。給付総額は、障害・死亡の増減によって変動があるが、医療費給付額は、毎年増加しており、医療の普及充実と医療費の値上がりを示している。（表6）

(2) 災害発生の場合

学校種別ことに特徴がみられ、小学校の場合は、半数以上が休憩時間中に発生しており、中学校・高等学校では、課外指導と教科中の災害が過半数を占める（表9）。この傾向は、毎年度同様であるが、数年前と比べると、授業時間中の災害が減少し、休憩時間中の災害が増加している。

(3) 災害発生の場合

小学校では、校舎内・校舎外はほぼ同様で、教室や遊き施設での災害もかなり多いが、中学校・高等学校では、校舎内の災害が多くなり、運動場や屋内運動場での災害が大部分となる。なお、学校外の災害は全般に少ないが、高等学校でやや増加するのは、競技会など学校外の施設での災害が多くなることを示している（表10）。

(4) 災害の種類

災害の98.1%を占める負傷についてみると、骨折、ねんざ、さ傷、打撲傷が多く、年齢が低いほど骨折、さ傷が多く、高学年になるとねんざが多くなる。疾病は、日・熱射病、間接炎、皮膚炎などであるが、各学校を通して少数である（表11）。

(5) 負傷の部位

小学校・中学校においては、負傷の約70%が上肢あるいは下肢に発生しているのに対し、幼稚園・保育所では負傷の約57%が頭部・顔面に発生している（表12）。